



「できる」ことの幸せ

次長 目崎 淳

保護者の方や初等部に興味関心を持たれている方に、日頃の初等部での教育活動の様子をご覧いただき、ご理解いただく大切な機会は、昨年度そして一昨年度は激減してしまいました。ホームページ等で学校でのお子さんの様子をお伝えしてきたつもりですが、やはり限界があります。実際に見ていただくものに勝るものはない、ということに改めて感じ得たところです。そのような思いから、授業参観や学校行事は、感染状況等を鑑みながら何とか行うことができないものだろうか、と、教職員一同、知恵を絞りながら行ってまいりました。しかし、中には社会状況等から止むを得ず中止にさせていただいたものもありました。

それでもやはり、目の前でお子さんの学校でのさまざまな取り組みを見ていただきたいという思いは、昔も今もあります。

まん延防止等重点措置がこの春に終了して3か月あまりが経過しました。今年度は入学式、5月の授業参観・運動会に続き、久しぶりに公開授業を伴う第2回学校紹介が実施され、初等部に興味関心をもたれている多くの方にご来校いただくことができました。また、今年度は延期することなく予定どおり6月22日(水)～24日(金)まで、6年生は中部地方方面へ修学旅行に行くことができました。保護者の皆様には荷物の準備やお子さんをはじめとしたご家族の健康管理等にご協力いただき、ありがとうございました。おかげさまで、当初計画していた活動を全て実施することができました。



修学旅行には、目標があります。「平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。」

(小学校学習指導要領 第5章 特別活動より)

言い換えると「知識を広げること」「集団生活のきまりを守れるようになること」「社会に生きる一人として守るべきルールを身につけること」となるのではないのでしょうか。「知識を広げること」中部地方の産業や歴史について、本物にふれることを通して、実感を伴いながら学習することができたと思います。

「集団生活のきまりを守れるようになること」修学旅行中は、集団生活ですので、自分勝手な行動はせず集団行動のマナーを守った生活を送ることができたと思っています。初等部生活最後の宿泊学習は、協力しながら友達との楽しい思い出づくりができたことと思います。「社会に生きる一人として守るべきルールを身につけること」訪問先は、どこも貸切の施設ばかりではありません。他のお客さんも私達と同様にその施設を利用しています。それぞれの訪問先でお互いが気持ちよく過ごすことができたのなら、目標達成です。

さて、これらの目標は修学旅行の目標だけではないと考えます。日常生活の中でも、とても大切なことです。例えば、本校に通学する大半の児童は公共交通機関を利用しています。「登下校のマナー」を身に付けていくことは、まさに「社会に生きる一人として守るべきルールを身につけること」であります。バスや電車の乗降車の際のきまり。歩道の歩くときのきまり。「友だちと大きな声で話したり、通路を歩き回ったりしません。」「道路は歩道を歩きます。(友だちと横に広がって歩きません。)」(「品位ある初等部生になるために 私たちのちかい・生活の中のマナー」より)

いつでも、どこでも、どんなときでも、自分のできることをコツコツと継続する。それが積み重なり、大きな成果を生むことにつながっていきます。何気ない当たり前のことを、当たり前に行っていく。凡事徹底を意識させていきたいものです。



ある学年の靴箱